



敵 柯 夢
 笠屋之勝赤根半七
 印操全傳
 第二ノ卷
 編者曲亭畫圃北齋
 新研策子



特別
 ~13
 3148
 2



特
へ13
3148
2

三七全傳南柯夢卷之二

東都

曲亭馬琴編次



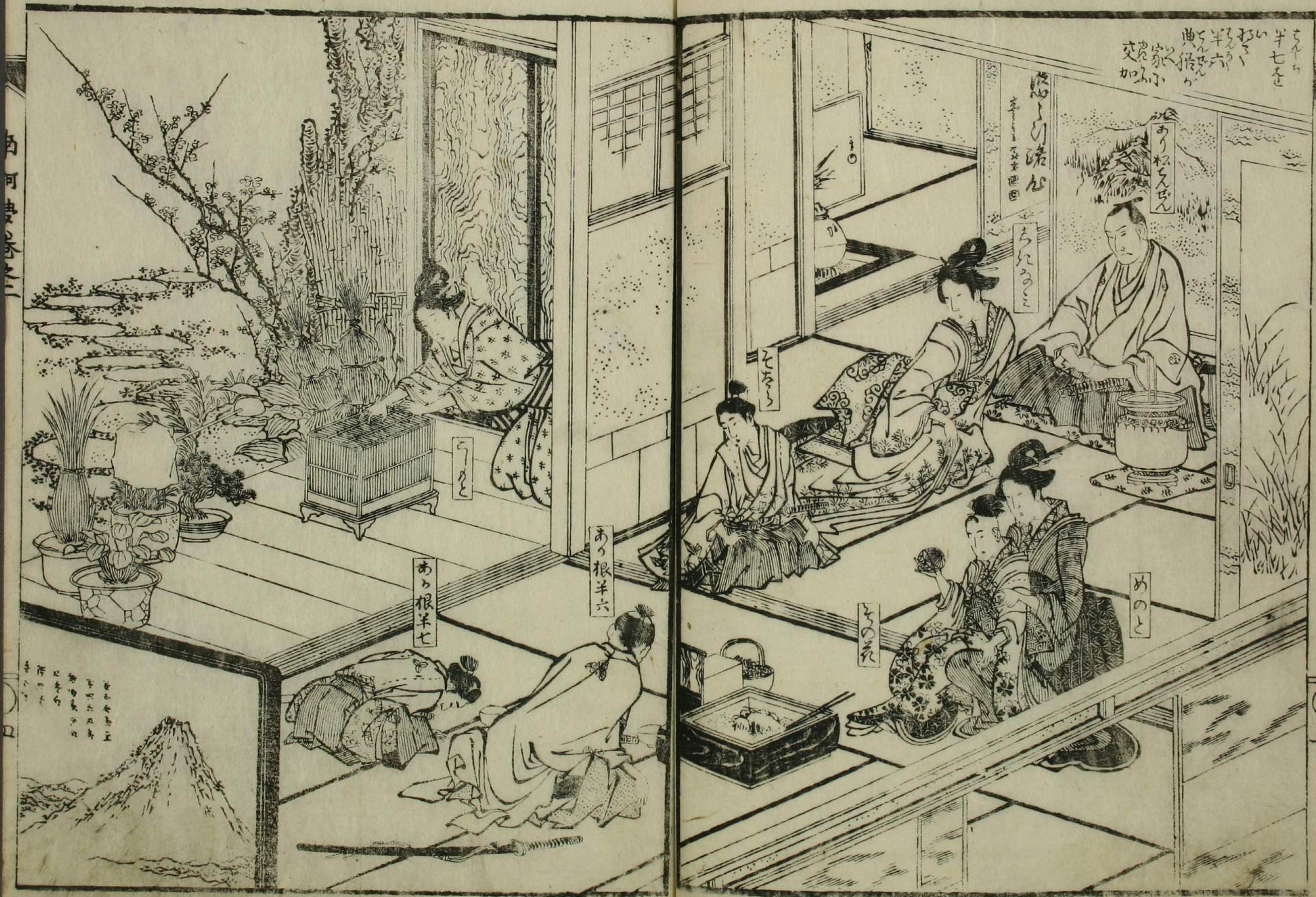
稚兒の嬾夫

ありまろんんんとりの。蟻松典膳豊度ハ。曩小赤根羊六が。米苔の楠を斫らんとし。いゝるゝるゝる。つゝあゝいあれど。既よ約束の日子ももりじか。駈の推つ夫をねく。彼山は。けい。羊六の先とらて。山の羊腹よられを待らけ。輒く為課をさるはを。えあはて。ろろとも小樹のゆよ。到る小。さゝりの大木。俄頃。凋然と。落せ。あつるを。二の枝を斫りて。榦ももとら。く。斧の刃を。入れ。りり。典膳。い。の。形執り。を。と。且。怪。且。飲。び。ま。を。え。り。て。入。の。才。あ。と。才。あ。と。才。貴。銭。を。り。て。論。ど。ど。野。夫。も。功。者。あ。り。と。其。許。の。も。あ。り。量。表。の。廣。言。空。一。と。ど。て。領。主。も。本。意。遂。め。ぬ。吹。拳。り。り。ぶ。才。よ。于。て。こ。り。

西河集卷之三

功あるものをいふ賞とぞんん。その序あり。若くは出づればよ。當坐の
賞。浅をとらふと仰る。あつる。嫡男吉推丸。今茲十歳。よろしに
さへ。鑑の被知あるべし。とて。みちる。その用意をせしむ。年果の
上旬。よるび。茶亭も成就。あつり。頃。昭是。彼慶賀の折。或も
。赤根。羊六を召出。五十貫の新比を賜。郡山の北。あり
る。五條の村主と命。せしむ。び。て。す。六。年。末の宿志を遂。て。領。主。小
拜謁。丹波都が女児。あつる。を。妻の姪。と稱。論。孫。羊七。と。も。小
お。五條の宿所。移。住。す。よ。別。一。斧。を。の。換。す。一。御。の。成。敗。を
管。と。林の運送。と。点。檢。す。奴。身。の。勢。と。日。毎。に。奈良。へ。出。仕。す。
後。よ。と。下。さ。よ。ある。司。を。れ。ど。その。御。よ。と。威。勢。あり。その。乃。体。小。佐
保の御人。ホ。さ。さ。親。も。疎。も。よ。ら。れ。身。う。り。と。て。羨。ぬ。夫。湯

する。りの水。を。求。る。よ。水。を。ぬ。く。飽。と。れ。更。よ。湯。を。求。ぬ。湯。を。ぬ。く。飽。と
。酒。を。わ。り。ぬ。も。人。慾。の。慎。が。た。不。あ。れ。ば。す。六。既。よ。を。足。つ。る。領。主
の家臣。と。ある。と。い。ふ。も。その。職。役。の。卑。を。厭。ひ。つ。り。と。近。臣。の。列。り
入。り。る。は。時。を。ぬ。く。政。事。よ。ある。ゆ。り。や。と。て。暇。ある。日。の。親。し。く。典。借
が。家。に。交。加。彼。人。の。乃。よ。志。を。運。て。冬。の。障。子。の。隙。を。張。更。す。寒。夜
。爐。の。火。を。吹。夏。の。屋。裏。を。ぬ。く。知。網。を。掃。拂。す。火。天。二。井。を。曝。し。
奴。僕。の。と。く。奔。走。し。る。その。竈。に。媚。り。り。ぬ。が。典。借。あ。つ。り。飲。み。こ。す。
。人。よ。も。と。ひ。ける。その。典。借。が。妻。の。名。を。數。浪。と。い。ふ。家。子。曾。曾。席。を
九。才。女。児。園。花。四。才。よ。ら。り。ぬ。凡。人。子。を。り。つ。と。れ。ぬ。その。愛。化。の。子。が
も。及。ぶ。が。人情の常。あ。れ。ぬ。典。借。夫。婦。も。羊。六。が。児。子。す。七。が。湯。園。
を。と。り。と。珍。物。を。得。け。る。お。く。それ。が。女。香。を。飼。よ。す。六。の。既。り。便



さんち
半七を
おい
羊六
典
家
交
加ふ小

あゝのえ

あり根羊六

めのと

あゝのえ

あり根羊六

あり根羊七

西河世

西河世

五
七
六
五
四
三
二
一

宜を給ふりと致し信らるるて答るる。さうしてあひざう。其原艱苦の中
養育日んが。子を教ふるも必しにせむ。今の君はまりて。子
どもよろしくをえんも習し。君の自のたす。支度武藝も。そのむかひ
て。いとむらさう。師を擇し。その容易く。むらさうはめ。がさう。よせ。言が久
後とも。あばつら。は。男の童へ。走まり。も。健軽。さう。言はめ。あひさう。老
るの。み。小孫。る。とも。あつ。べ。あつ。の。やせ。を。あ。ひ。茶。の。か。ひ。と
つ。さ。ら。そ。め。ひ。あ。び。彼。が。た。ら。大。る。僥。倖。あり。と。只。官。媚。とい。ひ。さ。ら。
次の。日。す。七。を。あ。つ。典。指。が。芽。よ。到。る。小。曾。を。あ。つ。の。れ。陪。侍。の。さ。う。と
う。れ。と。こ。その。ほ。ろ。り。を。離。る。ね。ば。典。指。夫。婦。も。又。憎。く。せ。む。と。う。の
食。ふ。も。あ。つ。曾。を。帝。と。り。う。と。も。小。さ。う。と。が。子。の。ご。と。怒。と。ね。あ。つ。さ。ら
輪。縁。の。志。夫。よ。似。む。す。七。が。あ。つ。奈。良。一。が。て。典。指。が。家。よ。止。宿

するを。傷痛く。と。い。さ。あ。つ。日。夫。よ。り。り。り。り。が。身。切。り。り。と。あ。つ。さ。ら
人。よ。の。教。み。ひ。を。あ。つ。り。り。さ。ら。君。よ。は。つ。の。の。公。車。よ。あ。つ。さ。ら。れ。ば。執
権。の。門。よ。到。ら。ざ。と。あ。つ。さ。ら。さ。ら。蟻。松。の。一。の。老。臣。よ。あ。つ。さ。ら。を。日
末。親。く。交。加。あ。つ。さ。ら。さ。ら。あ。つ。の。の。あ。つ。さ。ら。一。九。彈。一。解。る。人。を
猶。一。と。と。あ。つ。の。の。何。の。日。も。新。番。よ。さ。ら。あ。つ。さ。ら。木。よ。も。附。む。草。よ。も。附
む。只。信。ず。よ。の。の。職。分。が。守。り。と。在。と。さ。ら。羊。齒。あ。つ。さ。ら。す。七。と。一
彼。れ。さ。ら。し。あ。つ。の。の。雅。れ。の。の。あ。つ。さ。ら。て。人。の。怒。を。あ。つ。さ。ら
あ。つ。さ。ら。あ。つ。の。の。筋。ハ。ハ。ハ。と。對。し。姪。を。説。が。あ。つ。さ。ら。さ。ら。あ。つ。さ。ら。さ。ら
よ。の。あ。つ。さ。ら。あ。つ。の。の。あ。つ。さ。ら。あ。つ。の。の。恐。惶。あ。つ。さ。ら。さ。ら。あ。つ。さ。ら。の。の
その。り。り。と。さ。ら。理。あ。つ。の。の。あ。つ。の。の。あ。つ。の。の。あ。つ。の。の。あ。つ。の。の。あ。つ。の。の。あ。つ。の。の
す。七。を。奈。良。一。が。あ。つ。さ。ら。典。指。夫。婦。の。あ。つ。さ。ら。あ。つ。の。の。あ。つ。の。の。あ。つ。の。の。あ。つ。の。の。あ。つ。の。の



おふくの おん七
おん六
おさん
おしめ

おん七
おん六
おさん
おしめ

おん七

おさん

おしめ

おん七
おん六
おさん
おしめ

おん七

おん六

おふく

見も又奇くも故ありげに女の妬らるるあはれ百の抄をかくことと貞女
 義男の故るの賢人の記しあける書えくもあつて他一人を
 殺して母が遺言は恃るもの不孝の子不義の婦なりよく脛帯の
 脛をささめきとん恨あぶるは是夫婦がうの穢どつらあさる
 又三才のたれよ列し母ありとすべ神仏は祈念してひられよ
 三味線の撥を割符は環會親子の名吉志あよオセモ力を
 て善俗へ上る序あつて外なぐらみ人の往方よりく定めその
 夙願を果さるあ忠孝の道つゆもさる。まぶはははも命
 長くて緒せよ五十年忌の季さてもさあねねを吊あつ草の原
 りさつらるらうさつらつらとらも名残をさ。とむらう小揃
 小餘の恩愛の涙は袖はさばぬれて項は掛るるさどもら護身囊

とさうくえさ。夫のく會釈されはオ六がく土器をあらんがほう小
 さつらる。さ九度の勸杯も今ど戴く親の恩オセモ諸と小母の教
 訓身入る。涙は濁と味酒の三輪の苧環うらと。誓姻の式果小らり。
 かくて後禱禱の一言もめらさあ。さつら臨終を行らるるおの囁
 昏し弥陀の宝号十扁さうり唱つ。平然とて絆ぬぬとひ設る
 あつて今更しはさうく。オ六が愁傷つら。オセあさん天よ叫び
 心よ倒して哀悼を紅映空に枕を侵らり。さてもあるべ小あこれ
 オ六の次の夜は妻の送葬形のどく管。丹波都が一周忌もこの日小
 堂あさる。オ六経誦して追薦の仏を執行ひ。さつら寂冥を
 目をさるらぬ。

さつら坂の倭人

待といふはす六の妻の忌果一は舊のぶし仕して典膳が宿不交加
とらる。そのゆえより親しりたり。さうれどもす七の性は輪蔭が阻て後の
奈良一かくとうり。経ある日典膳夫婦。す六のいふやう。かくの意小
稱ざるやうん。久しくす七をふんじ。さか子どもらも徒然がらある。曾太
郎。す七と端な。南圓堂へあはして。狂山とせむとせむ。母のあはれ
衣服たられのみも便あつた。羽衣のうらむ。す七をねさく。未あ。五七日こ
こふ。苗るとも。何れ苦し。るべしとりの。す六のすて。今よそとめど。かく懇切小
望えあふ。親子が傍侍あり。亡妻のその性遠慮あるのあり。され。稚れ
の親く。ある。罪わがう。死にせむと。あ。あを固辞さ。ら
ひ。さ。か。う。を。さ。げ。え。あ。う。せん。す。七。も。さ。か。を。故。び。ゆ。め。迫。れ。お。お。て
あ。ん。ゆ。べ。と。う。五。條。へ。ゆ。と。あ。て。羊。七。は。縁。由。を。物。り。こ。う。く。奈良

あけこのす七の母の遺言を守りて。出。う。も。入。ら。む。あ。う。ん。と。り。な。さ。し。ら。ん。と
あ。り。う。べ。い。り。奈良への王を故び。お。さん。も。又。彼。を。故。び。さ。る。と。を
喜。ぶ。と。う。い。ひ。懲。て。の。潜。忍。と。後。を。を。れ。て。ま。も。あ。う。さ。り。る。程。り。
羊。六。は。と。り。め。を。あ。は。す。七。を。曾。ち。郎。が。武。藏。の。師。へ。入。門。に。て。日。毎
は。奈良への。う。り。を。れ。を。修。托。は。典。膳。が。の。遺。り。り。り。り。て。と。あ。う。ん
も。留。る。と。さ。ゆ。と。す。七。も。推。辞。ご。う。て。つ。と。あ。う。く。奈良へ。妙。に。誓。言。古。果
て。後。曾。ち。郎。は。付。れ。典。膳。が。家。へ。日。を。暮。す。と。り。も。多。う。り。元。来。怜
れ。童。る。ゆ。べ。あ。の。の。夫婦。との。動。止。死。え。く。只。願。は。稱。讚。し。あ。る。日
典。膳。の。妻。の。敷。浪。よ。の。す。女。児。園。花。の。僅。は。五。才。な。れ。ど。女。の。童。の。大。人
め。も。早。れ。が。孫。の。う。ら。づ。彼。より。ど。あ。る。べ。し。あ。う。う。今。より。誓。言。を。擇
て。生涯。を。安。ら。う。と。過。さ。ら。ん。の。親。の。慈。悲。あり。それ。日。未。す。七。が。奉。止

とつるよ。その才の長しるる。廣く奈良の藩中よ。二人とある。うもとん。彼
 が又す。その新とあつて。五條一村の吏。あれが。女児を遣嫁とへた。の
 ろくねど。ひる。期よ。びて。とも。ひも。あ。人。の。は。く。て。喪。ひ
 易。れ。が。う。づ。羊。の。情。由。と。あ。く。せ。く。彼。が。回。答。を。け。や。と。あ。り。あ。り。
 身。が。こ。ろ。の。や。と。同。よ。女。浪。ち。ぞ。柔。思。て。お。七。が。身。も。
 さ。め。の。さ。る。ふ。あ。う。ね。ど。近。属。人。の。の。を。す。は。る。よ。お。七。が。妻。世。よ。あ。り。時
 され。が。婿。の。女。児。と。す。え。ん。を。養。育。久。後。の。う。が。よ。よ。妻。あ。の。ら。ん。と。假。小。娘。日
 姻。の。孟。さ。る。海。し。り。と。ぞ。の。言。実。と。て。作。ら。う。の。相。話。あ。か。と。も
 う。ひ。あ。う。う。ん。う。や。彼。人。の。身。が。緑。高。く。威。権。あ。つ。て。異。様。あ。く。美
 引。る。あ。り。と。も。初。死。の。う。の。ひ。名。つ。け。妹。脊。の。中。を。引。引。袋。を。遣。嫁
 ん。の。誠。を。惹。の。媒。あ。ら。ぬ。う。く。と。ひ。め。が。じ。あ。ひ。ね。と。回。答。す。れ。が。典。儀。

びて吟味す。七ある。月。総。雨。と。す。る。よ。婚。姻。を。と。り。締。づ。と。い。ふ。の。と。の
 謂。う。と。と。ま。れ。く。あ。れ。面。の。う。ま。は。は。同。と。と。の。お。七。も。若。黨。ら。じ。
 外面。より。障。子。を。細。す。う。押。開。け。て。赤。根。氏。の。諸。未。あ。り。と。告。ぐ。よ。典
 膳。け。も。あ。ら。ぬ。と。い。ふ。と。い。の。若。黨。の。障。子。を。舊。の。と。り。は。て。退。出。
 数。浪。も。次。の。間。よ。の。の。結。妙。よ。咳。ニ。ツ。四。ツ。と。羊。の。書。院。の。縁。が。け。ひ
 心。り。未。だ。と。その。安。否。を。訊。問。と。い。ふ。の。う。の。後。の。木。の。葉。落。し。と。す。え
 して。師。走。り。も。却。り。寒。け。し。を。の。さ。る。へ。く。某。毛。を。引。て。進。ら
 ず。べ。と。い。ひ。う。づ。携。り。未。だ。る。紙。包。紙。う。ら。弁。た。つ。う。う。と。の。を。え。れ。い。
 鴨。一。番。を。青。の。目。籠。よ。り。れ。う。典。儀。を。の。志。の。ゆ。う。と。と。を。た。ぶ。は。
 え。ら。う。の。爐。の。ほ。と。り。よ。招。け。て。四。表。八。表。の。話。の。序。よ。羊。七。が。吟。刺。を。稱
 ころ。の。う。う。久。後。の。女。児。園。表。を。す。と。よ。妻。あ。の。ら。ん。と。い。ふ。ひ。が。あ。り

とらざるも其許の内室せよありとらぬ姪女とすらんよひ名つけて。羊七の
 妻と定めたるも。厨ひあるをり。あつてを夫つり。そのる實
 言のつやと向すたつたれをびて。画面は笑を合口。いどひわつたぬ。あ
 うけあつたのうら。新糸のすたが児子よ一の老臣の息女は妻あつてあつて
 とすするをれそ。實言ともはさゆらぬ。亡妻が娘の子の抵あ。成娘は日
 め。それの人とある後。皆を招き。その家を終とせたりのあつた。す七が妻
 あつた。は。あつたを彼ホが年紀も似つら。く。あつた。は。生音をいん。く。
 する風やをとするのありとも。推量の説かれ。論ずる小足。す。く。と。
 誠。く。う。陳。せん。曲。張。忽。比。膝。を。ま。と。ゆ。あ。つ。つ。と。た。れ。の。抵。有。縁。懸
 ぶ。べ。さ。ら。の。の。今。人。よ。あ。じ。が。じ。す。七。も。齡。二十。を。超。園。花。三。八。の
 春。を。迎。つ。る。も。い。は。は。を。る。も。の。ら。ら。ら。の。其。許。も。一。等。を。す。と。す。ま。も

新ははく。伏縁父は孫せんとも。又親子のろとも。小。舊。の。柴。賣。う。ま。う。ん。も。
 いらむ。い。よ。あ。れ。が。も。仍。り。の。室。り。が。い。ま。く。其。許。は。異。儀。あ。つ。つ。の。事。の
 も。ゆ。め。め。い。く。一。献。酌。べ。う。あ。ふ。す。六。が。う。故。と。は。る。婚。縁。を。破。る。こと
 あ。の。意。の。隨。罪。あり。あ。つ。て。恨。ほ。と。い。ふ。の。と。た。敷。浪。の。屏。風。の。後
 け。り。出。く。す。六。は。換。授。く。女。児。が。婚。縁。と。の。い。と。故。り。た。う。を。ば。え。か。く。後
 鴨。を。喜。い。う。あ。は。種。の。殺。を。添。く。實。主。三。入。酒。り。任。終。日。相。語。し。た。り。
 かり。び。り。た。れ。の。す。六。の。う。ら。す。も。ま。身。の。便。宜。然。り。て。そ。や。老。臣。も。昇。進。
 する。ら。ら。ら。つ。遂。よ。輪。縁。が。遺。を。用。ひ。ど。怒。り。の。義。を。も。推。言。を。も。た。忘。ま。し
 て。い。ま。も。典。孫。夫。婦。の。肩。傍。只。顧。る。が。児。の。成。長。を。宿。ま。び。て。引。も。伸。ま。ま
 ほ。い。た。よ。つ。て。も。い。く。と。深。念。する。よ。う。も。あ。た。ま。は。な。よ。鮮。され。と。輪。縁。
 が。信。終。よ。あ。つ。ん。を。す。七。が。妻。と。定。め。た。れ。た。れ。た。彼。ホ。童。と。入。り。も。母。の。遺



笠松平三奈良

膏

祖元 熊膏藥

祖元 熊

笠松平三

赤根半六

山

言ありとて。睦くくりのすまふよ。羊園とら。引離し便あらんを
 のとら。故障小うりて。松松氏の婚日縁いづ。あつるこあふ。親
 子ひるあつる。めつらんも量ぐ。あつる今よりともわ。りて密よ
 あらんを。追ひ夫ひ。後の患を。免れあつ。と。む。つ。よ。ひ。定。め。て。一。か。つ。て
 の漏る。小易しと。く。ひ。か。く。く。く。よ。を。動。く。さ。ぐ。ん。ち。く。その便宜を
 窺ぬ。小亦。道曾。奈良の大佛のほろ。小笠松平三といひ。あふ。高入ありけ
 る。この平三。原浪。速人。あつ。旅芝。居の。俳優を。興行し。伊勢の古市。泉別
 塚。尾張の年。奥知。美濃の稲葉山。あつ。周防の山口。長門の下関。あつ。て
 都會。教系。花の。比。の。到。ら。さ。る。曲。も。あ。つ。し。う。去。年。の。十。月。五。七。八。の。俳。優。を。お。お。て
 西園。赴。く。お。も。難。風。あ。つ。の。船。を。再。復。さ。れ。俳。優。も。あ。つ。る。大。奥。の。腹。り
 せ。せ。られ。る。よ。その。身。の。辛。く。て。沈。柴。船。は。助。衆。られ。奇。く。も。活。残。れ。ども。

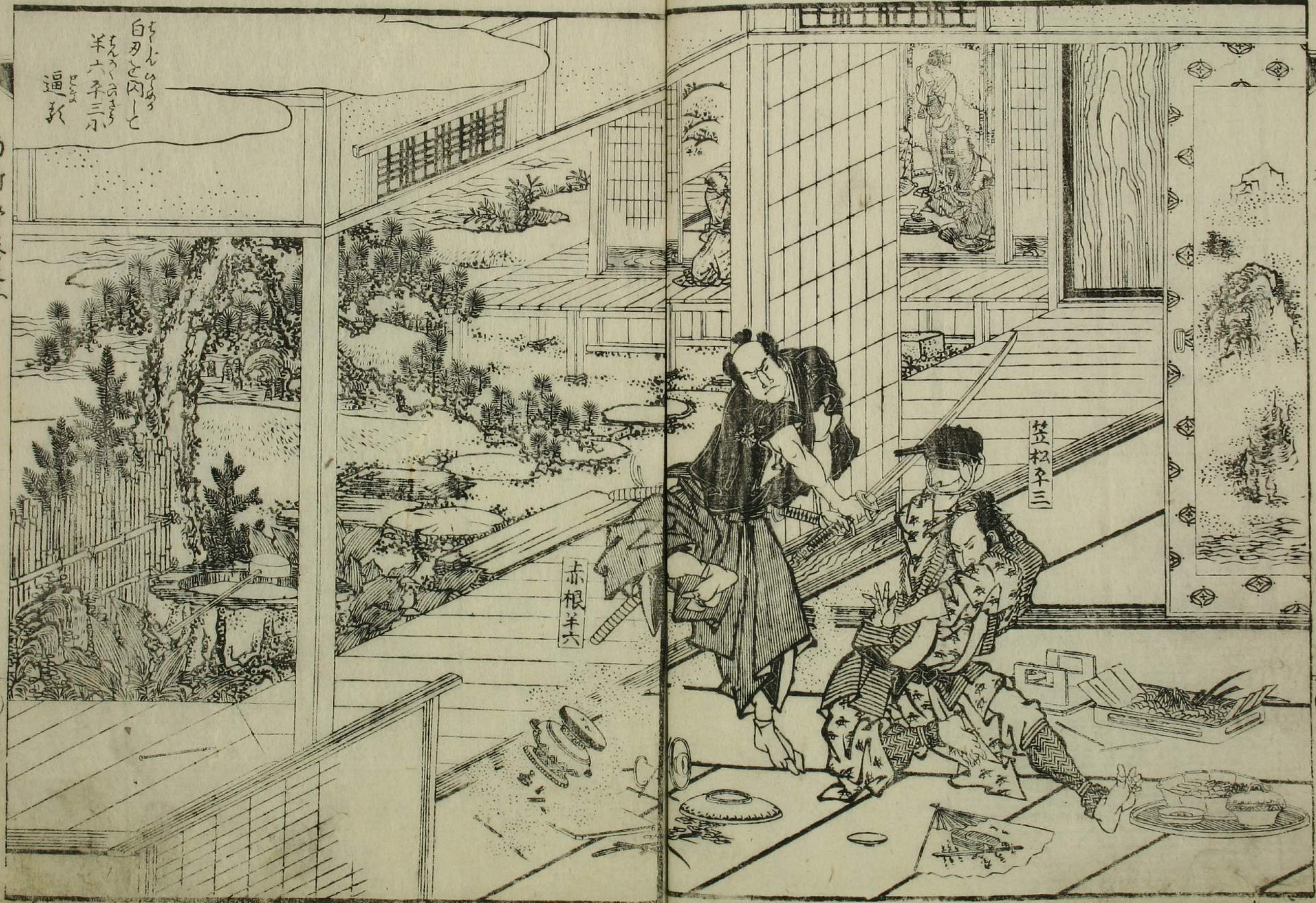
遺らぬりの行李。路銀も。忽ち。生活の本。浅を。う。ま。ひ。ゆ。小。と。も。らん。す。べ
 る。ふ。と。か。く。あ。く。奈。良。さ。さ。ぐ。ま。歸。り。川。上。の。南。小。う。け。旅。宿。を。り。あ。日
 毎。大。仏。の。ほ。ろ。り。小。笠。あ。つ。延。布。さ。つ。て。鼈。亀。鞍。の。膏。葉。茶。を。寄。高。ぐ。あ。打。拾
 づ。あ。つ。る。れ。前。の。首。尾。具。足。と。る。熊。の。皮。を。置。て。熊。膏。葉。茶。と。の。三。個。の
 文字。を。筆。墨。よ。字。し。紙。の。職。を。あ。あ。折。漆。の。政。中。を。戴。て。丹。田。山
 木。綿。の。右。布。子。小。ら。ん。ら。の。袖。を。を。を。を。り。あ。つ。る。貝。よ。入。れ。或。の。紙。小。押。餅
 なる。膏。葉。茶。を。処。に。た。さ。ぐ。あ。つ。る。あ。れ。鳥。獸。の。声。音。を。似。せ。く。往。來。の。老
 弱。を。集。合。し。ふ。ん。を。彼。を。口。順。て。熊。の。平。三。席。と。ぞ。稱。る。折。り。あ。あ。あ
 赤。根。羊。六。の。高。天。神。の。ほ。ろ。り。よ。所。用。あり。て。大。佛。の。門。前。を。さ。つ。る。よ。作。の。平
 三。の。暖。氣。あ。つ。る。日。南。方。よ。坐。を。し。彼。此。人。よ。對。ひ。て。高。す。う。よ。い。ん。せ。り
 鼈。鞍。の。茶。の。野。あ。れ。と。僕。が。製。表。す。と。さ。つ。り。あ。あ。あ。く。熊。の。脂。よ。家。傳

の茶種を煉あり〜衣服よ所ど。又痒觸せど。ト〜び用る人ハ一切腫物
 の根をぬぎ。その功神のごと。是則周の文王の夢よんぬひるよ〜
 此脂を用く。三函の名鑿華髪が製し。身を搦と。人の妾婦
 娥の次血ぐ。月の中よまると。宋人が川よ出く。布衣洗ぬよ。通液と
 るひ。彼人よ信。授ちるを。長客がその法を。百金よ買とらる。軍よ勝とら
 妙業を。僕弱く。しと。猶夫より。がある日山中よ。異人より。この茶
 方を授て。〜世の助ともあれ〜と。此度人の薦よ。南都よ出
 賣弘るもの。この膏茶一貝を買ぬ人あれ。鳥獣の声と。つひ〜
 び〜ちか〜。往昔より。鹿笛。鶯笛。笛の音と。その音を
 似せ。つら〜。鳥獣ハ。引音曲音。急促音の三ツあり。不正
 羊濁の音。あれ。〜も人間と。ある〜。彼笛を。め。似する。〜。

警。バ。犬の〜と。鳴。氣の〜と。鳴。熊の〜と。鳴。鹿の〜と。鳴。又鳥の〜
 あ〜。家鴨の〜。と。〜。急促と。〜。隠〜。響音ある。真の鳥
 獣。は。比。も。笛の。及。び。た。よ。あ。つ。ず。あ。〜。の。妙。を。〜。の。唐。山。よ。と。益
 嘗。君。が。鶏。鳴。の。客。日。本。よ。と。い。ひ。く。〜。平。三。只。一。人。の。〜。の。中。小。犬。の
 叔。母。と。よ。家。鴨。の。姉。に。あ。〜。も。在。ら。ば。僕。が。中。と。ら。る。鹿。あり。や。實。ある。や。
 よ。〜。て。あら。〜。〜。〜。〜。老。弱。と。笑。ひ。〜。膏。茶。を。買。ぬ。あ
 ち。買。ぬ。〜。あり。〜。〜。〜。〜。赤。根。羊。六。を。嚮。より。人。の。後
 ち。〜。在。る。〜。平。三。は。暗。を。急。促。に。謀。を。生。じ。て。人。の。別。を。散。を。給。
 臆。〜。平。三。を。物。蔭。よ。招。け。〜。声。を。低。し。言。卒。介。よ。あ。れ。〜。領
 主。の。御。内。よ。〜。赤。根。行。〜。と。〜。〜。今。彼。処。よ。〜。面。影。を。る
 ぶ。世。を。迎。あ。ひ。〜。〜。〜。似。〜。の。〜。〜。〜。の。声。音。と。つ。の。違。い。ぬ

不覺はる人のもつりたる。その膏茶はありあり買ふべし。は
 くれは侍をく。一盃を酌んや。とひりひり。懐中の紙入りの金一両をと
 ぞ。とくふ。予三子よ。故びと。とらうらうら。る。僥倖。孔子の陽虎小
 似阿達志貴の天稚日子。似壹岐直真根子。武内宿禰小似。る
 故。の。非。優。も。も。する。と。あれ。ど。も。る。む。と。た。祥。も。も。あ。ら。ぬ。心。お。の。れ。か。
 ら。も。も。た。人。よ。似。く。と。此。一。膏。茶。を。賣。盡。し。刺。酒。を。あ。ら。んと。空。
 する。を。昇。り。推。辞。ゆ。べ。た。誘。あ。と。急。一。ぶ。六。飲。び。て。直。は。布。ら。じ。し。る。
 蔭。を。巻。か。さ。め。さ。を。り。り。せ。は。酒。店。に。到。り。奥。より。り。る。坐。敷。よ。り。て。對。ひ
 居。ら。ぬ。且。く。あり。と。女。の。童。二。人。泖。子。よ。盃。と。り。と。え。く。殺。し。た。程。より。と。来。り。り。を
 の。と。た。ま。ひ。の。女。の。童。よ。對。ひ。り。の。高。天。神。の。會。日。さ。る。よ。客。も。夥。さ。れ。ば。飲。酒
 も。添。あ。ぶ。る。よ。りの。ほ。く。の。堂。々。々。々。と。べ。た。よ。く。り。り。と。い。ふ。女。の。童。を

あ。く。も。推。辞。ど。ら。う。つ。た。ら。た。か。の。の。う。た。れ。が。怒。一。ぬ。ひ。ね。と。い。ひ。て。外。の。う。つ。こ
 退。出。ぬ。つ。つ。と。羊。ら。の。三。と。酒。酌。う。り。や。羊。酢。よ。な。ぶ。る。た。後。方。と。え。く。と
 つ。密。語。る。の。嚮。は。汝。を。か。見。よ。似。く。り。と。い。ひ。一。の。説。き。く。實。は。ん。ん。と。こ
 ろ。あ。り。て。一。大。事。を。教。え。ゆ。え。ん。た。よ。ら。誘。ひ。来。し。る。り。り。ぶ。ら。れ。を。受。
 納。あ。と。と。か。く。び。懐。中。より。五。兩。の。金。を。と。り。出。し。盃。は。添。く。と。く。する。を。
 ら。く。も。も。ら。く。と。一。大。事。と。定。ま。れ。の。向。と。も。精。一。り。僕。錢。の。活。業。を
 する。れ。ど。し。四。十。よ。至。る。と。悪。よ。と。ど。ど。人。を。傷。ら。ぬ。五。兩。の。金。は。け。が。た。れ
 と。命。は。換。て。祈。ら。ん。と。縁。由。と。ら。じ。ぬ。倘。初。め。に。筋。う。ら。ぶ。兼。引
 る。も。や。ん。と。と。ら。せ。も。あ。つ。ど。眼。を。睜。し。小。膝。ま。る。し。一。と。鞠。小。を
 り。か。を。れ。予。三。田。か。り。と。ん。く。ひ。り。り。と。を。け。て。後。は。急。ん。と。武。士。を。武。士
 と。も。ら。ぬ。一。言。ら。夫。ハ。幡。堪。忍。あ。く。ど。わ。く。女。く。た。め。と。い。ち。く。ど。可。惜。辰。月



白刃と閃く
 羊六平三小
 通新

赤根羊六

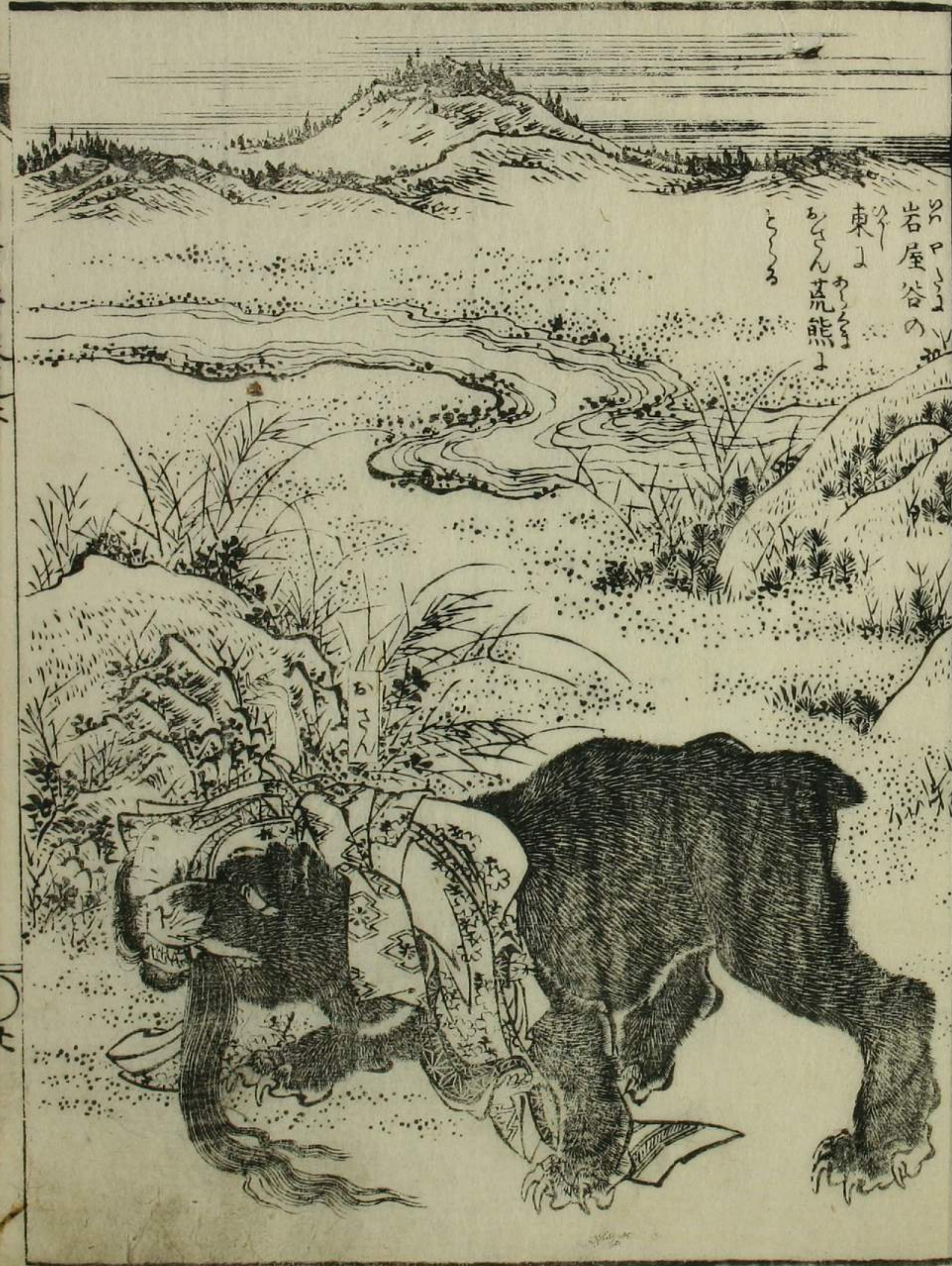
笠松平三

西河...

を動してさるるれいらを安うね。飲念せよと罵こら。刃を内して飲ん
とするを銚子をりらして柱は酒をらばれて散乱し。うが月一係る一生
錢命。の溜るゝカ尖丁と受らめて呵くと冷咲ひ。命惜まはらとて輒ち
与せぬ。助くるさうな命あら。後の禍も患るよ足ら。と。林定と頼せぬべし。
怒を刀とめろ。あやめぬと反し。騒ね男さうひよ。お六やをりり
成り天晴を煉。晴は違つど。ぶその金を納し。後事審小相話べ
し。とりくとりとが。平三金をとら。や中ノ擲財は絆されてよす
めつ。の破るよ。びて物の用を。さうじ。徒とさひあ。縦金
あつ。づも。ら。ぬ人ノ東道。と。半日の酔を。場さう。その報
をせむ。構め。何よ。な。や。え。あ。と。諾し。お六の
感激し。ぶ。金を拾ひ集。赤刺。刺子。銀。柏葉。大の字の
紋つら。割掃杖を。鐔の。間より。抜出。扇を。屏。て。金と。も。小。の。ら
よ載。それ。全く。財を。り。其。詩を。誘ふ。あ。と。ど。の。二品。の。當。中
す志を。表。する。の。と。さ。う。これを。納。め。事。成。物。と。り。報。ひ。を。と。べし
と。と。町。囀。よ。す。む。も。と。平。三。金。と。掃。杖。を。と。ら。懐。は。扱。し。ふ
お六。や。ら。う。妻。堵。く。額。を。合。し。耳。を。と。ら。う。う。一。つ。周。遊。教。刻。よ。ら。び
遂。は。女。の。童。を。の。酒。を。節。散。を。添。さ。更。は。四。五。杯。を。ひ。て。あ。つ。く
酒店。を。走。り。出。ず。と。東。西。は。列。れ。り。この。日。の。野。の。客。さ。う。り。か。う。り
ぢ。親。の。女。の。童。も。づ。と。づ。つ。れ。は。紛。と。と。彼。二。人。が。密。談。を。せ。て。と。と。と
ら。う。し。と。と。

大柵の権輿

ちのふふその次の日。は。輪。の。百。箇。日。の。速。夜。よ。と。の。り。赤。根。守。六。は。



くらりくらり。くぐりのまもりの疑ひくらべ。その故に如此にあり。箇様く
 ろりくら。奈良よ。くす六は酒を強られ。金と掃枝をねらる。ま
 めさん。を家よ。養育ての。六六親子が仇とあつた。情由あは。密に
 殺ちとて。そのまね。首尾を説き。くが。此の差。松平。こと。な。と
 賤に。陪業。つれ。と。不。の。黄金。よ。ち。或。人。を。殺。と。あ。り
 ら。ど。あ。れ。兼。引。ど。の。中。を。ま。ら。と。責。む。實。よ。と。ひ。定。め。る
 氣。し。つ。れ。が。ご。ご。を。ね。ど。領。掌。一。旦。あ。つ。計。る。と。い。と。も。う。つ。も。一。と。と
 の。小。女。子。を。助。らん。め。の。を。と。深。念。し。つ。ら。ま。至。こ。一。が。今。中。身。の。奉
 止。を。る。よ。壯。士。も。乃。び。が。じ。う。う。う。と。く。彼。人。の。奸。悪。を。推。量。り。
 更。よ。中。身。の。いと。を。く。情。あ。く。も。棄。る。よ。忍。び。び。が。一。身。と。う。ら。任
 ん。と。う。ら。直。よ。華。洛。つ。ね。く。上。り。と。も。の。く。り。と。糧。育。べ。中。身。が。ら。ろ

の。よ。ど。や。と。い。ひ。む。さん。の。縁。故。を。ゆ。え。く。め。と。よ。と。声。を。交。成。あ。る。は
 袖。の。間。う。り。ど。う。り。落。る。を。う。れ。拭。ひ。つ。る。身。の。う。ら。ま。過。世。の。悪。業。あ。く
 一。く。母。の。三。才。の。年。よ。別。れ。父。の。非。命。よ。世。を。去。り。あ。ひ。生。の。母。と。も。た
 の。と。一。その。人。も。身。ま。り。て。今。の。一。人。の。養。父。の。老。也。た。あ。後。よ。う。も
 反。哺。の。孝。を。あ。と。さんと。あ。ひ。う。う。と。ひ。さ。や。殺。ん。と。ま。ぐ。小。憎。る。何
 過。の。あ。る。熊。よ。を。り。う。と。じ。あ。り。ん。と。う。や。中。身。の。ら。ろ。め。く。命。を
 助。ら。う。と。も。う。が。身。あ。り。て。養。父。の。ま。う。ま。せ。と。の。た。あ。と。と。ま。て
 の。五。條。一。ぬ。り。が。は。う。う。ぶ。あ。れ。身。を。憐。れ。く。艱。ひ。う。り。と。あ。つ。つ。辛。辛。あ
 苦。の。世。に。登。つ。と。も。親。と。一。仕。く。再。生。の。思。の。化。よ。と。ひ。け。く。と。う。う。九。才
 の。女。の。童。が。う。せ。と。う。と。や。め。あ。れ。ん。が。う。が。身。よ。も。又。情。愿。あ。り。と。齡。う。り
 小。あ。る。と。も。狂。女。ま。り。の。も。と。う。う。り。人。の。妻。と。ら。う。り。が。じ。と。あ。つ。た。故

ありて。命の惜れもそのなるがらう。その後、中、あ、あ、一、條、の、美、引、の、ら、後、に、活、業、を、世、を、渡、る、も、推、辞、は、し、と、回、答、し、る、事、に、ま、ま、と、嗟、嘆、し、て、それ、を、も、好、む、が、事、の、早、い、あ、ら、れ、ど、も、妻、に、娶、ら、ぶ、同、胞、も、な、れ、よ、つ、て、お、お、の、病、も、づ、い、は、老、後、の、も、世、へ、お、お、と、う、し、し、て、天、の、小、女、を、あ、ら、る、も、う、ら、う、さ、る、幸、福、な、り、を、安、り、れ、富、貴、の、家、よ、り、縁、一、結、ん、と、い、わ、す、る、も、い、月、が、惜、愿、の、破、る、事、に、日、も、い、ま、暮、る、ふ、と、う、し、と、ま、ま、を、さ、う、あ、ら、ん、を、背、負、ひ、つ、夜、に、給、ま、さ、く、山、を、走、り、り、直、に、華、洛、へ、上、り、し、す、ま、六、が、与、ら、る、五、六、兩、の、金、を、奉、饒、し、る、此、の、生、業、は、年、月、短、あ、ら、り、ぬ、ら、う、干、て、お、お、ん、の、父、丹、波、が、ら、ぬ、母、の、も、お、六、輪、縁、が、ら、ぬ、又、如、此、と、の、故、に、う、ら、う、と、ま、ま、と、う、り、お、七、と、妹、背、の、縁、を、痛、し、る、審、由、物、が、ら、ぬ、事、三、の、も、の、美、學、と、貞、操、の、ん、さ、う、さ、る、を、感、嘆、

。且、その、薄、命、を、憐、れ、し、う、ら、う、と、彼、が、母、は、環、會、と、い、ふ、を、う、ら、う、その、往、方、を、索、し、と、ま、ま、の、事、華、洛、に、ま、屋、夏、と、い、ふ、舞、妓、あ、り、り、魚、是、向、拍、子、の、流、し、と、ま、ま、世、は、ま、ぬ、く、と、稱、ふ、も、う、め、越、前、の、幸、雅、が、ま、牙、華、洛、に、上、り、て、俳、優、を、あ、ら、う、今、の、夏、は、至、る、の、ら、う、と、い、は、る、彼、幸、雅、へ、桃、井、直、常、の、子、孫、な、り、と、い、ふ、舞、妓、の、詞、の、戦、場、の、故、り、世、の、景、迹、恋、慕、の、癡、情、を、述、ぶ、その、音、曲、三、十、番、あ、り、ら、う、を、め、ま、く、管、領、執、り、と、い、ふ、も、酒、宴、の、席、に、あ、ら、う、と、ま、ま、彼、夏、を、招、け、あ、い、し、輕、小、の、家、あ、ら、う、衣、食、は、富、ぬ、又、平、三、の、年、末、旅、芝、居、を、挿、す、と、い、は、る、其、が、家、に、疎、く、と、い、は、る、お、お、ん、を、彼、が、子、子、と、し、て、舞、妓、を、お、お、と、い、は、る、よ、う、づ、う、四、五、年、あ、ら、う、と、ま、ま、の、技、を、極、ま、ら、う、顔、色、の、艶、妖、ら、う、を、習、て、い、月、も、忽、沈、雲、に、隠、れ、容、姿、の、匂、づ、あ、ら、う、よ、う、い、は、れ、ら、う、い、は、る、花、も、羞、ら、う、風、



おん
舞
名を三勝と
更

南木屋巻三

十四

情もさへ人をも頻々稱讃し其の舞を却夏も勝つりといふ
 さる程は平三のあそびが二八の喜のころより。彼を看とよとて。夏が
 家号を冒らし。世は孫とといひをよき。芝屋三勝と名づけ。洛東紙
 園の社頭は干す。女樂を自ひちり。父物の老弱雲のち。集霧の
 くまのこ。繁昌昔貞和九年の六月。足利尊氏卿四條河原。核敷
 を構え。田樂をえとる。やと。か。ぼえ。三勝
 が舞のまよ。鄙鄙の人を招けり。その名高く。笑え。牛打童七口。順
 ち。これをつんざうんり。人も蔑も。我も耻ら。く。さ。ひ。り。と。と。
 勝へ世の人。一面をえ。う。う。と。は。う。く。い。あ。れ。と。父丹波都が。臨
 終。と。う。な。く。も。げ。え。わ。た。し。彼三味線の因果よく。今舞くと。う。う。う。う。
 割符の撥も。う。づ。う。う。う。う。母よあ。あ。た。う。と。と。と。う。り。や。せ。ん。と

又物の老女。の。睛を。着。と。と。れ。う。と。あ。ふ。人。も。あ。く。加。稱。大。和。と。と。
 ト。と。と。夫。と。定。て。オ。セ。が。う。う。う。う。じ。く。華。洛。の。う。り。あ。ふ。と。も。ま。よ。年
 長。稚。貞。う。と。え。ん。忘。と。や。あ。ら。ん。が。名。告。あ。あ。あ。あ。と。オ。セ。が。家。の
 紋。る。柏。の。葉。は。大。の。字。を。舞。の。衣。裳。に。縫。せ。り。世。の。人。定。は。陣。名。
 と。大。柏。と。う。び。う。り。後。世。舞。の。名。目。と。う。り。幸。稚。大。柏。の。二。流
 は。分。る。大。柏。の。る。雍。州。府。志。は。え。也。今。大。頭。と。稱。る。大。柏。の。記。さ。う。ん。ら。
 この大柏の打拾の頭。天冠を戴く。身は狩衣を被腰。一振の太刀
 を佩て。大口袴。を穿。大小の鼓。あり。う。う。踏。ち。り。凡。能。優。い。傀儡。
 田樂。刀。玉。雲。舞。連。飛。輪。脱。緒。小。桶。比。丘。筋。木。種。類。多。し。と。い。へ。ど。も。今
 の。舞。伎。の。名。も。よ。り。舞。伎。の。名。も。却。あ。り。假。舞。伎。の。名。も。く。く。と。
 平三の昔。う。う。う。う。と。う。う。世。代。女。ら。ら。に。流。る。ほ。と。よ。い。二。勝。を。う。う。

西可也

家の瑤鏡樹と鍾愛して。まづ舞の衣裳を脊負ひその履をこら
 へ。主君のまづ小管待を三勝りつりまくとめり。その物体あつても
 るうみ。かる所なるを。身と笑りあひと。まづ一練をよみ
 は聴こえと。他まづ冊たり。

三七全傳南柯夢卷之二

